

「八輦の山車」

華車・旧本町

旧本町は、最古の記録として残る寛永七年

(1630年)にはあったと記され、挙母神社の西側から桜城(元元城町)の間に位置しておりました。

旧本町で目を見張るのは彫刻で、信州諏訪の立川和四郎富昌(二代)、富種(三代)、富淳(四代)らによるもので、文政二年(1819年)から明治四年(1871年)まで実に五十年あまりの水きりおたり完成させたもので、二代富昌作「栗裡に錦」、[手長足長]は傑作中の傑作であります。

喜多町



○大幕 (昭和五十年作)
七福神を表現 (旧幕は無兼・天保二年制作)
○彫刻 (明治十四年作) 瀬川重光 (名古屋)



○大幕 旧幕 (明治三年作) 源義経の八岐統びと平教経の建業で、堀ノ口の合戦を表現
○彫刻 (文政二年作) 二代 立川和四郎富昌 (諏訪)

竹生町



○大幕 旧幕 (明治二八年作)
支那竹林の七賢人を表現
○彫刻 作者不詳

中町



○大幕 旧幕 (天保六年作) 神社東に「蛇の池」があったことから、池に竜を表現
○彫刻 (大正十四年作) 初代 村山静風 (高山)

神明町



○大幕 旧幕 (天保二年作)
祭神の不和彦子の妻を白・赤・青の三段幕で表現
○彫刻 (明治四四年作) 瀬川三郎 (名古屋)

旧南町



○大幕 旧幕 (嘉永二年作) 源平の戦いにおける熊谷直実と平教経の姿を表現
○彫刻 (安政二年作) 瀬川重光 (名古屋)

西町



○大幕 旧幕 (大正十五年作) 徳川の戦いにおける輪木正成と、如堂輪堂の輪木正行を表現
○彫刻 (明治三九年作) 伊藤松次郎国光 (名古屋)

旧東町



○大幕 旧幕 (嘉永二年作) 中国の故事より張良が、部・黄石公の書を授け、韓信の書を授けるところを表現
○彫刻 (天保六年作) 早瀬長太郎 (名古屋)

挙母祭り 挙母神社の例祭として寛永年間(1624~1643)の頃から、五穀豊穡を祈り行われていました。最古の記録としては、寛文四年(1664年)佛奉四輦[東町・本町・北町(現中町)・神明町]、獅子舞(南町)後に傘鉦(西町・竹生町)とあり、寛延三年(1750年)には挙母藩の命により、従来の獅子舞を廃止し山車を建造し始め安永六年(1777年)に南町・西町が翌年には新北町(現・喜多町)・竹生町の佛り車がで八輦となりました。この八輦の山車は、昭和三十九年(1964年)に愛知県の有形民俗文化財に指定されるとともに、豊田市の指定文化財にもなっています。掛け声と紙吹雪の中を山車が駆ける勇壮なさまは、三河の三大祭りに数えられ多くの人に親しまれております。

挙母神社 挙母神社は、天の神(天津神)前身は衣上之祖と言われ創建年代は不明。高皇産靈神、天照岐志国照岐志天津日高日子彦能邇々尊、天萬槌幡千幡比売命の三柱を祀り、文治五年(1189年)この地に隠れ住んだ源義経の従士鈴木重善が、後に大和国吉野から天の水分神「龍之宮」天の水分神「子守り神」を勧請し、この五柱を祭り「子守大明神」と称す。明治四年(1871年)瑞穂直県により県社として現在の「挙母神社」と改められました。

